

風土記の丘の花だより¹⁷⁴

今、そしてこれから見られる植物(2023年2月25日)

前の号で紹介したサンシュユですが、きれいに咲き始め、上の道からでも黄色が目立つようになってきました。下まで見におりて行かれたら、ついでに上のヤドリギを見あげてください。ヤドリギの種子を運んでくれる小鳥、ヒレンジャクがヤドリギの実をついばんでいるかもしれませんよ。



先日21日には20羽近い群れが飛来していました。

アセビの花がきれいに咲き出しました。通路ぞいよりも、少し中に植えられている株の方がたくさん咲いています。今年はどの株にもいっぱいつぼみが付いていて、淋しかった去年とは比べものにならないほどたくさんの花が咲きそうです。有毒植物とは思えないほど清楚で美しい花です。何と言っても透き通るような白が魅力的です。ここには少しピンクっぽい花もありますが、それはそれできれいですね。これからだんだん美しくなって来ることでしょう。



小さな小さなキュウリグサの花が咲いています。これは花木園で撮影しましたが、日当たりのいい所で普通に見られます。この草はムラサキ科の植物で、少し水色がかかった花を段々に付け、花茎の先がクルッとまいていく様子がかわいいです。これとよく間違えられるのが同じ科のハナイバナです。そろそろ咲き出すでしょうから、これとよく似ていて、葉がすこし縮れた感じに見えるのがあれば、見比べてみてください。歌にもなった有名なワスレナグサ(勿忘草)と同じ仲間、言われてみれば花はそっくりですね。上のキュウリグサよりも小さいフラサバソウの花です。



「花です」と言われても、「どこに花があるんだ」と言い返したくなりますね。よく知られたオオイヌノフグリなどと同じ仲間の草で、かつてはゴマノハグサ科でしたが、今は何とオオバコ科に分類されています。「どこがオオバコと似てるんや!」とつっこみたくなりますが、エライ先生がそう言っているのだから、そうなのでしょう。フランスの学者、フランシェとサヴァティエのフラとサバ(本当はサヴァ)をとった、実にエエかげんな名前の外来植物です。最後は久しぶりにキノコを紹介します。名前は長いですよ。ツバキキンカクチャワンタケと言います。漢字にすると「椿菌核茶碗茸」です。この方が分かりやすいですね。散ったツバキの花の下で菌核というものを作り、そこからキノコを出します。1センチほどの地味なキノコですが、ツバキの木の下での枯葉や花がらを取り除くと、運が良ければ見つかります。座り込んで探してみては? 松下

